

おわりに

本研究の課題は、第1には、日本の教育現状と教師の授業改善のニーズを理論的・実証的に論拠付け、教育スーパービジョンの必要性と必要とされる教育スーパービジョンの基本構造を明らかにすることだった。第2の課題は、第1で示した基本構造をもつ教育スーパービジョンを実施し、指導するにはスーパーバイザーにどのような技能とコンピテンスが求められるのかを明らかにすることだった。そして、第3の課題として、第2の課題で明らかにした技能とコンピテンスをもつスーパーバイザーを専門的に養成する方法と養成段階と養成期間を考えることだった。この研究に着手してみて、授業改善に向けた支援には多様な道筋があること、そして教育スーパービジョンが有力なオルタナティブであること、教育スーパービジョンのモデル開発とともにスーパーバイザーが専門的に養成されなければ授業改善に向けて教師を支援できないことが明らかになったことは、大きな成果だった。

この成果をあげることができたのは、ひとえに多くの授業実践を提供し、観察を許容し、授業改善のための提案を一緒に考えてくださった先生方、またアンケートにお答えくださった多くの先生方のおかげである。そしてビデオ撮影をし、授業記録を作り、トランスクリプトを作成してくれた学生たちのおかげである。3年間の研究期間を継続的に、また卒業して入れ替わりながら支援してくださった皆さんに、この場を借りて感謝申し上げたい。

本報告書では、授業のトランスクリプトなど実践にかかわるものを挙げていない。また別の機会に実証的研究の成果を述べたいと考えている。また、教育スーパービジョンワークで使用可能なワークシートは、別冊としてまとめている。ご参照いただければ幸いである。

本研究をとおして、多くの先生方が授業改善への意欲を持ち、日々努力されていることを知ることができた。しかし他方で、アンケート調査からは、先生方の多忙さや現代の子どもの成長や保護者への戸惑いも知ることが出来た。何よりも先生方に研修のための時間的保証と精神的ゆとりが必要であることを痛感した。このような研修のための条件の改善と共に教育スーパービジョンの実践は進んでいくのだと考えている。そのためにも、スーパーバイザーの専門的養成をどの機関で行うのかを考えることは、残されている課題の一つである。

最後にもう一度、本研究に協力していただいた方々に感謝して、報告を終わる。